

クリタマバチの天敵チュウゴクオナガコバチの県内における分布

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

研究のねらい

チュウゴクオナガコバチは、クリタマバチの防除に有効な天敵である。この天敵は、一度定着すると自然に増殖し、クリタマバチの被害を少なくする効果がある。熊本県では、昭和57年に大津町、同61年に松橋町、平成5年に球磨村、上村および水上村に放飼している。

果樹研究所では、放飼が必要な地域の有無を検討するため、平成6年チュウゴクオナガコバチ分布状況を調査した。

研究の成果

1. 大津町および松橋町に放飼されたチュウゴクオナガコバチは増殖し周辺の市町村へ分散していた。
2. 球磨村、上村および水上村ではチュウゴクオナガコバチの定着を確認できなかった。
3. 平成6年現在、チュウゴクオナガコバチの分布が見られない地域は、緑川中流域（矢部町、清和村）および人吉・球磨地方であった。
4. チュウゴクオナガコバチは一年に数十km単位で移動する。したがって、県北産地で放飼する必要はない。また、緑川中流域は、周辺の市町村からチュウゴクオナガコバチが飛来し、数年以内に定着すると考えられる。
5. 人吉・球磨地域は、放飼2年目の結果を踏まえ、再放飼の要否を判断する必要がある。
6. チュウゴクオナガコバチは、前年のクリタマバチゴール（虫こぶ）の中で越冬している。このため、ゴールのついた剪定枝は園内に残し、天敵の保護を図る。なお、剪定枝は、実たんそ病等の伝染源となるのでチュウゴクオナガコバチが羽化した後（4月中旬以降）すみやかに処分する。

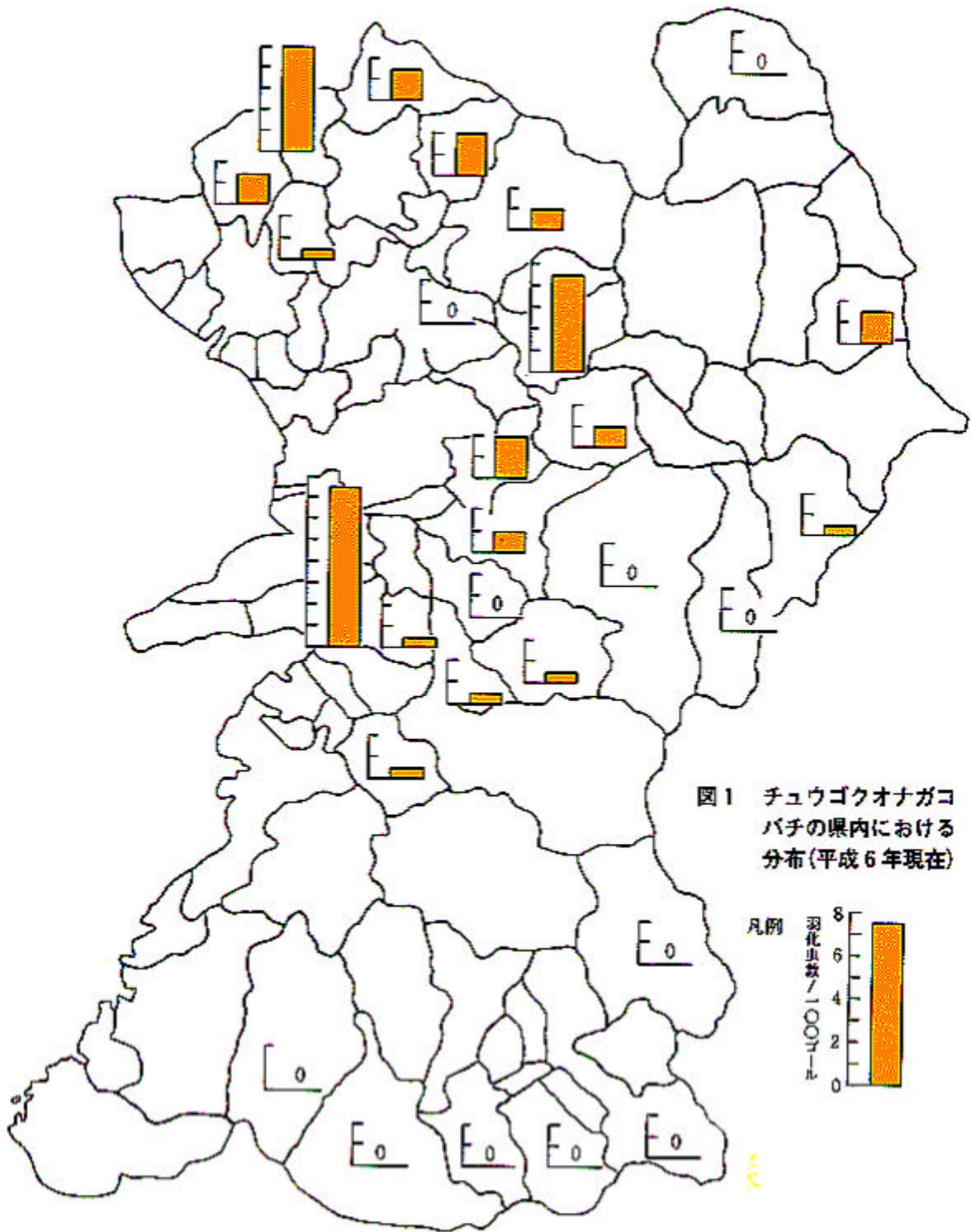


図1 チュウゴクオナゴバチの県内における分布(平成6年現在)

図1 チュウゴクオナゴバチの県内における分布(平成6年現在)